

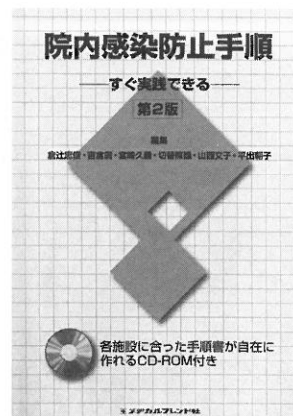
院内感染防止手順 すぐ実践できる 第2版

メヂカルフレンド社 (ISBN 4-8392-1387-9)

2006年 定価 5,670円

編集 切替照雄

国立国際医療センター研究所感染症制御研究部



この本は、いわゆる従来の院内感染対策マニュアルではない。いろいろな医療現場で実際に使用している院内感染防止手順の例を集めた事例集といった方が内容に近いかもしれない。この手順集を実際に院内感染対策で使用してみるとその便利さが実感できる。実際の医療現場では、日常本当に多様な感染対策の問題が突然現れる。そんな時に、ここに記載されている事例集をあたると、なるほどと思われる「フローチャート」、「チェックリスト」、「院内報告様式」や「ポスター」の例に行きつく。これらの事例は、添付のCDに記録されているので、読者がそれをもとに改訂することができる。従って、本書は、院内感染対策をいつも立案しているICTのメンバーにとっては大変便利である。また、比較的規模の小さな医療施設、専任がおけず普段の感染対策を相談できないような施設では、ぜひ、医療従事者が日常手に取れる場所にこの本をそろえてもらいたい。例えば、「この頃、針刺し事故多いよね。」と感染防止委員会の問題が指摘される。本書の「針刺し事故」の欄を開く、まず針刺し事故防止策に関するポイントが箇条書きで記載されている。不必要な教科書的な記述は全くない。ついで、針刺し事故防止策のポスター、事故時の対応の概略、ウイルス性肝炎フローチャート、針刺し事故後フローチャート(HIV用)、このままで教育スライドの素材に使える針刺し事故防止策、感染事故報告書例、針刺し・切創事故報告書、労災申立書例、現認証明書例と続く。これだけで、担当者は、針刺し事故対策として他の施設がどのように対応しているのか、自分たちの施設で何ができるのかが数分で理解できる。さらに、自分たちに必要なものをすぐに作成できる。

ほとんどの医療施設は、院内感染対策マニュアルをもっている。それぞれが適切でありながら、必ずしも活用されていない。従来の院内感染対策マニュアルは、どちらかという、教科書的であり、網羅的であり、一般化し過ぎるきらいがある。本書が生まれた背景には、このような従来のマニュアルの反省がある。実際の医療現場を知っている読者が医療現場で本当に有効な自分たちの感染防止手順を作成することが重要である。本書はそのための優れた素材を提供している。